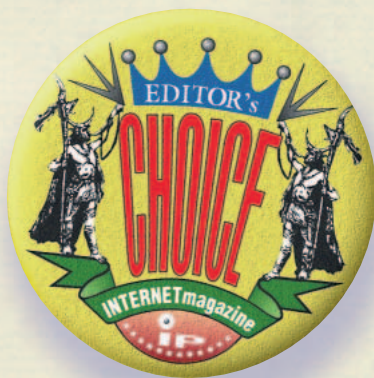




今月の編集部オススメのソフト&ハード

Editor's Choice

今月紹介する商品はインターネット時代のアプリケーション削除ソフトとして有望な「WinDelete3」、強力なHTML編集を備えたWWWサイトの管理ツールの本命といえる「Microsoft FrontPage 97 for Windows」、FTPを確実にできるアドレス変換機能を備えたダイヤルアップルーター「NS-2480」、インターネット上の画像や音声を一括管理できるマルチメディアデータベースソフト「インターネットニンジャ」だ。

今月のラインナップ

ネットスケーププラグインに対応したアプリケーション削除ソフト

WinDelete3

住友金属工業株式会社



Webサーバーと連携して使える高機能なHTMLエディター

Microsoft FrontPage 97 for Windows

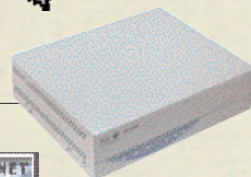
マイクロソフト株式会社



WWWブラウザから簡単に設定できるダイヤルアップルーター

NS-2480

セイコー電子工業株式会社



WWWブラウザから取り込んだ静止画や音声を分かりやすく一覧表示する

Internet Ninja

株式会社アスキー・サムシンググッド



このコーナーの見方



付録のCD-ROMに収録



市販の
ハードウェア製品



市販の
ソフトウェア製品



シェアウェアの
ソフトウェア



フリーウェアの
ソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先

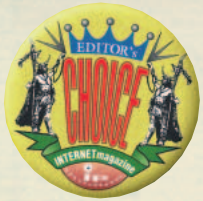


付属品



ファイルサイズ/
最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



ネットスケーププラグインに対応したアプリケーション削除ソフト

ウィンデリートスリー

WinDelete3

ここがスゴイ!

- 1 プラグインソフトウェアが簡単に削除できる
- 2 インターネットでダウンロードした不要なファイルが削除できる

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]



12,800円



住友金属工業株式会社



ウィンドウズ95にアプリケーションをインストールすると、アプリケーションを実行するためのプログラム以外にもさまざまなプログラムがいろいろなフォルダにコピーされているのをご存じだろうか。ファイルのコピーだけではなく、知らず知らずに「system.ini」などの設定ファイルも変更されている。このようなファイルのコピーや設定ファイルの変更は、インストールするときには自動的に行われるので気にする必要はないが、削除するとなると話は違う。アプリケーションの実行ファイルがあるフォルダを削除するだけでは変更された設定ファイルや「windows」フォルダにコピーされたファイルはそのまま残ってしまい、後の動作に不具合をもたらしてしまう。このような問題を解決するのが「アプリケーション削除（アンインストール）ソフト」である。今回紹介するアプリケーション削除ソフトの「WinDelete3」は、ふつうのアプリケーションはもちろん、ネットスケープのプラグインソフトウェアの削除も簡単にできるソフトだ。

▶ ネットスケーププラグインのインストールも管理

ネットスケープナビゲーターのプラグインソフトは、それ自体で動作するふつうのアプリケーションとは違い、ナビゲーターを拡張するソフトだ。したがって、ナビゲーターがインストールされているフォルダにもファイルがインストールされる場合がある。特に、インターネットは大手ソフトウェアメーカーに限らず、だれでも自分が作ったソフトウェアを発表できる場所だ。ウィンドウズ95の「アプリケーションの追加と削除」機能では対応できない場合も多いだろう。実際、編集部でもベータ版のプラグインソフトウェアをインストールしたために動作がおかしくなり、「アプリケーションの追加と削除」で削除したにもかかわらずシステムが不安定なままになってしまうことは日常茶飯事だ。そんなときには、ハードディスクのフォーマットをしてウィンドウズ95を再インストールするしかない。しかしWinDelete3はネットスケープのプラグインソフトのインストールも監視してくれるという。新しいプラグインソフトウェアを試すのが好きな人には最適なソフトといえる。

▶ インストール時に監視させる必要がある

WinDelete3を使ってアプリケーションやプラグインソフトウェアを削除するためには、インストールするときにもWinDelete3を使う必要がある。やり方は、ま

ずWinDelete3を起動し、メインメニューから「インストール」を選ぶ。するとインストールプログラムを選ぶ画面になるので、「setup.exe」など、インストールプログラムを指定し、「OK」ボタンを押す。するとセットアッププログラムが起動するので通常どおり画面の指示に従ってインストールする。インストール作業が終わるとWinDelete3は行われたインストールを解析し、変更部分を記録する。この作業には少し時間を要する。ネットスケープのプラグインソフト「VDOLive Player」をインストールしたときには、1分ほどかかった。

アプリケーションを削除する場合は、「アンインストール」を選ぶ。ハードディスクに入っているソフトウェアがツリー状に表示されるので、「WinDelete インストール」の中から、削除したいものを選ぶばよい。

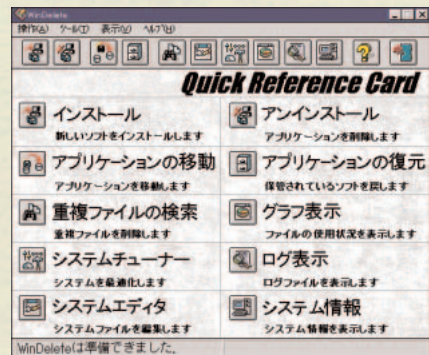
▶ 「重複ファイルの検索」もインターネットに対応

WinDelete3はアンデリート機能のほか、重複ファイルの検索、アプリケーションの移動、システムファイルの編集、不要なファイルのチェックなど、さまざまなファイル管理ツールがそろっている。「重複ファイルの検索」は同じ内容のファイルがないかどうかを検索してくれるツールだが、これには「.htm」や「.jpg」などの拡張子が付いたインターネットでもおなじみのファイルにも対応しているのがうれしい。

▶ インターネット時代の削除ソフトとして期待

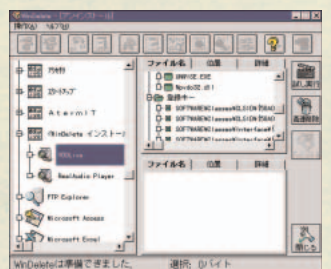
WinDelete3はアプリケーション削除ソフトとしての充実した機能に加え、インターネットを多用するうえで便利な機能が付加価値として魅力的ではあるが、インターネットエクスプローラの「ActiveX」コントロールのインストールに対応していないのが少し残念だ。自動的にインストールされるActiveXコントロールを感知してログを記録してくれるような機能を今後は期待したい。

(編集部kataoka@impress.co.jp)



① メインメニューの画面。各機能の説明が書かれており、分かりやすい。

② ソフトウェアのインストールが終わると、システムがどのように変更されたかを調べる。



③ アンインストールの画面。右画面にはインストール時にどのように環境が変わったかがすべて表示される。

WinDelete3



住友金属工業株式会社



12,800円



3.0



03-5476-9825



未定



マイクロソフト株式会社



Webサーバーと連動して使える高機能なHTMLエディター

Webサーバーと連携して使える高機能なHTMLエディター

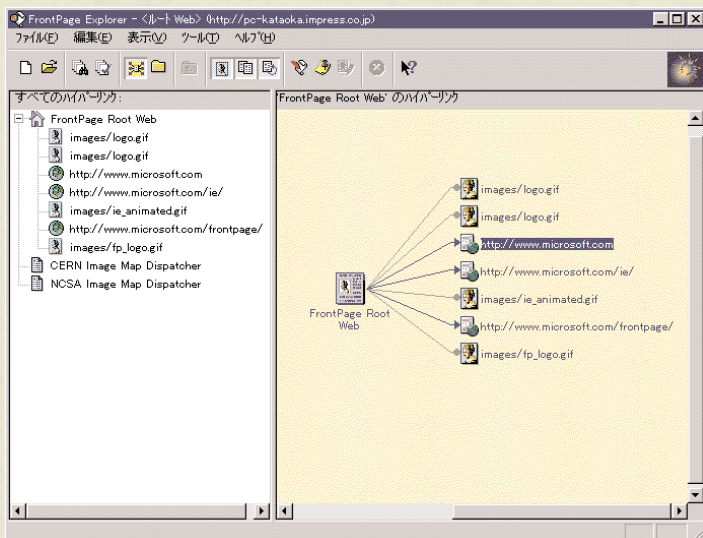
Microsoft FrontPage 97 for Windows

ここがスゴイ！

- ① ワープロ感覚で高度なHTMLファイルを作成できる
- ② Webサーバーを内蔵し、連携した高度な運用ができる
- ③ コストパフォーマンスが高い

おすすめ度

[ユニークさ]
 [コストパフォーマンス]
 [使いやすさ]
 [期待度]
 [総合]



① FrontPage Explorerの画面。リンクの状況がグラフィカルに表示される。

「Microsoft FrontPage 97 for Windows」(以後はFrontPageと表記)はマイクロソフトからリリースされた日本語に対応した強力なWebサイト管理作成ツールだ。あるいはWebパブリッシングツールと言い換えてもいいだろうし、もっとわかりやすく言えばHTMLエディターを中心としたコンテンツ管理のツール群だと言ってもいい。

従来はFrontPage1.1として英語版のみが公開されていたが、10月になって最新バージョン公開のタイミングで日本語版を含む各国版が同時配布となった。公開されたバージョンはベータ2の評価用としてリリースされたものだが、とにかく詰めるだけ機能を詰め込んだ多機能なツールになっている。

インターネットはもとより、イントラネットでの利用を強く意識した構成になっているが、HTMLエディターという側面だけから見ても完成度は高く、百花繚乱と言われている現在のHTMLエディター市場にも大きな影響をあたえそうだ。

▶ Webサイト管理・作成の機能を集約

先にも書いたように、FrontPageは強力なHTMLエディターを備えており、それだけでも十分魅力的なソフトということができる。しかし、FrontPageはけっして単なるHTMLエディターというわけではなく、Webサイトの作成や管理を行うためのツールがすべて集まった総合環境というべきものになっている。

FrontPageは、まず「FrontPage Explorer (フロントページ・エクスプローラ)」と呼ぶ中核をなすツールがあり、各種の設定やWebコンテンツの作成・メンテナンスを行う基本的なインターフェイスを受け持つ。そして、実際にHTMLファイルを作る際に呼び出されるのがHTMLエディターとしての「FrontPage Editor (フロントページ・エディター)」。さらにWebサーバーとして動作する「FrontPage Personal Web Server (フロントページ・パーソナル・ウェブ・サーバー)」の3つがあり、これらが連携して動作する。

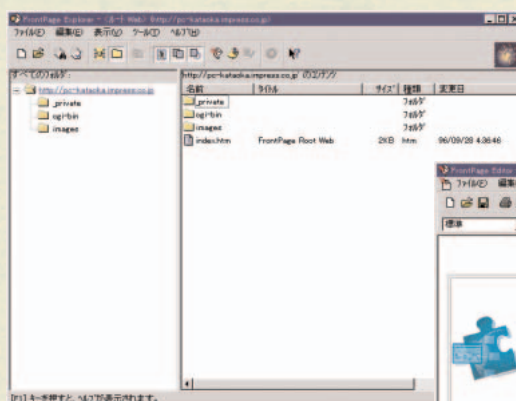
こうしたツールがそれぞれ密接に結びついたシステムとなっているため、技術的に高度なWebコンテンツもかなり容易に作成できる環境となっている。FrontPageでは、ODBCインターフェイスを使ったデータベースとの連携も可能で、HTMLエディターとしてもテーブルやフレームへの対応はもちろん、Java、JavaScript、VBスクリプト、ActiveXコントロール、プラグインなどに対応。また、サーバーとの連携でWeb上での会議システムや検索サービスも特別な技術が必要とせずに実現可能だ。対応するサーバーは同梱のFrontPage Personal Web Serverのほか、それぞれのエクステンションを利用することでUNIX用の各種サーバー、Windows NT用の「IIS (インターネット・インフォメーション・サーバー)」とも連携できる。

▶ すべての操作の中核となるFrontPage Explorer

すべての操作の中心となるのがFrontPage Explorerだ。まずFrontPageを起動すると、FrontPage Personal Web Serverと同時にFrontPage Explorerが立ち上がり、メニューが表示される。ここから先は各種の設定が可能のほか、実際にWebコンテンツを作成するために新規作成を選択したり、すでに作成されたWebコンテンツを読み込んでのメンテナンス操作が行える。

Webコンテンツの作成もワープロソフトのようにあらかじめテンプレートも用意されており、さらに問い合わせに答えていくだけで自動作成するウィザード機能も用意されているため、用途に合ったものがあれば、それを選択して必要な項目に答えていくだけで簡単にWebコンテンツのひな型が完成する。たとえば、会社概要を作成するためのテンプレートやプロジェクト管理のためのもの、そして一般的には構築の難しいWeb上の会議システムなどもウィザードの中に含まれている。

コンテンツの新規作成、あるいは読み込みを行うと、



①「エクスプローラ」と同じような表示のしかたにもできる。

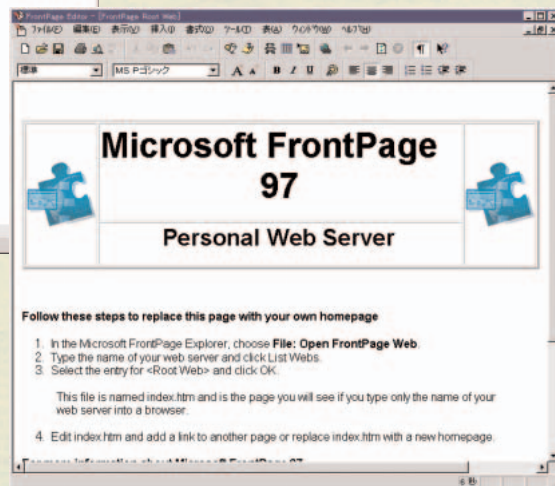
画面の左側にそれぞれのHTMLファイルやフォルダーの一覧が表示され、右側には選択されたHTMLファイルのリンクの情報を矢印とアイコンを使ったグラフィカルな画面で表示してくれる。こうしてWebコンテンツの構造をすぐに確認することができ、実際にHTMLファイルなどを変更する場合には、そのHTMLファイルをダブルクリックすることで編集が可能になる。つまり、HTMLエディターのFrontPage Editorが起動されて、当該ファイルが読み込まれるわけだ。

▶ 日本語対応のものとしては数少ない強力なHTMLエディター

そのFrontPage Editorは日本語対応のものとしては数少ない非常に強力なHTMLエディターとなっている。基本的な操作感覚はワープロソフトのようなもので、HTMLのタグを意識せずに編集していくWYSIWYGタイプ。操作画面やツールバーを見れば、それはまさにワープロソフトだ。あとはどんだん文字を入力し、色や大きさなどの修飾や特殊効果などをアイコンやメニューバーから選択して指示してやればよい。

対応しているさまざまなスクリプト、ActiveXコントロール、画像、水平線などもメニューバーなどから挿入を選んでいけば埋め込んでいくことができる。埋め込まれた各種要素や文字についてはおおむねマウスの右クリックによるプロパティですぐに修正が可能だ。

機能も豊富で、対応するHTMLタグをとっても、基本的なものはもちろん、テーブルやフレーム、インターネットエクスプローラが対応しているBGMやマーカーのタグなどが含まれ、サーバーとの連携で実現するアンケートなどで使用する各種入力フォームや、表示期限を設けた部分的なHTMLや画像の表示、タイムスタンプの取り込みなど複雑なことも手軽に実現できる。画像に関しても、GIFやJPEGファイルといったデータの取り込みはもちろん、相互のデータ変換、透明GIF、インターレースGIFの作成が簡単な操作ででき、クリックマッピングや特別なツールを起動することなく作成できてしまう。そして、編集結果は常にWWWブラウザでサーバーを経由して見ることができる。また、テーブルやフレームといった、やや高度で従来作成するのが難しかったものも、まさにワープロ感覚でできてしまう。それぞれのタグや効果に関するパラメーターもきめ細かく用意されているため、まずできないことのほうが少ないと言っている。



②FrontPage Editorの画面。HTMLエディターとしての機能は豊富だ。

▶ 高機能に低価格が加わって国内では独壇場か？

このほか、ボーナスパックと呼ばれるソフト群も公開されており、これもまたFrontPageの実用度をおおいに増している。

ボーナスパックは、高機能版WebサーバーのPersonal Web Server、簡単な操作でftp経由などでWebコンテンツをサーバーに登録するWeb発行ウィザード、高機能な画像編集ソフトImage Composerなどが含まれる。ただし、Image Composerについてはベータ2の段階ではまだ日本語化されていない。

こうした総合的なWebサイト作成管理ツールについては、従来もアドビ社の「SiteMill」やマクロメディア社の「Backstage」などが存在していたが、日本語化された環境という意味ではFrontPageが完全にこれらをリードした形だ。マイクロソフトによると、この年末にもボーナスパックを含む正式パッケージがアメリカと日本でリリースされるという。残念ながら国内価格は未定だが、アメリカでは149ドルという低価格で販売される予定になっており、国内でもかなりの低価格になると予想される。また、マッキントッシュ版の投入計画もある。

ベータ版ということで、現在のところまだ不安定な部分も存在するが、おおむね完成度は高いと言っている。インターネット、イントラネットとWebを利用した情報システムが爆発的な普及を続ける中、こうしたツールは必要不可欠なものとなってきている。FrontPageは特に日本語に対応していることで、国内では存在価値のある注目ツールと言える。（石橋文健）



③FrontPage Personal Web Serverの画面。設定項目はなく、起動していることだけが確認できる。

Microsoft FrontPage 97 for Windows



マイクロソフト株式会社



ベータ2



未定



<http://www.microsoft.co.jp/office/frontpage/index.htm>



98,000円(DSU無しモデル)
118,000円(DSU内蔵モデル)



セイコー電子工業株式会社



WWWブラウザから簡単にできるダイヤルアップルーター

エヌエス

NS-2480

ここがスゴイ！

- ① 端末型ダイヤルアップ接続ができる
- ② 設定がWWWブラウザから簡単にできる
- ③ 100,000円を切る低価格

おすすめの度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]

インターネットへのダイヤルアップ接続というと、パソコン1台をモデムやTAでつなぐ「端末型ダイヤルアップ接続」を思い浮かべる人が多いと思うが、1台ではなく複数のパソコンをつなぐときには、一般的には「LAN型ダイヤルアップ接続」の契約をプロバイダーとする必要がある。ただ、LAN型ダイヤルアップ接続は端末型よりも高く、個人ユーザーには少し敷居が高い。今回紹介するNS-2480を使えば、端末型ダイヤルアップ接続でLANにつながった複数のパソコンから交互にインターネットにアクセスできる。つまり、複数台のマシンから同時にホームページやFTPをすることはできないが、1台のマシンからのアクセスが終わればもう1台のマシンからもアクセスできる。複数台のマシンから同時にアクセスできないとはいえ、LAN型ダイヤルアップに敷居の高さを感じている人にとっては最適の製品だ。

▶ アドレス変換機能によりLAN上のマシンからのアクセスが可能

NS-2480は専用線とダイヤルアップの両方でできるルーターだ。ISDNによるダイヤルアップ接続ができるルーターは「ダイヤルアップルーター」と呼ばれているが、ふつうのダイヤルアップルーターにはない付加価値として、NS-2480には「アドレス変換機能」がある。

今までも「NAT(ネットワーク・アドレス・トランスレーション、364ページ参照)など、LAN内でしか使えないプライベートアドレスをインターネット上で使えるグローバルアドレスに変換する機能はあったが、「NAT」という規格は1台のパソコンをつなぐことしか定義していないので、「NAT対応ルーター」といっても複数台のパソコンをつなぐことはできなかった。

ところが、NS-2480のアドレス変換機能は、同時にアクセスできないとはいえ、LANにつながった複数台のパソコンからのインターネットアクセスができる。WWWブラウザによるホームページの閲覧はもちろん、FTPも問題ない。従来のNATを使ったアドレス変換の場合、FTPが途中で途切れてしまう場合があったが、NS-2480なら、「FTPゲートウェイ機能」を持っているので、FTPも途中で終了してしまうことがない。

LAN型ダイヤルアップは端末型に比べて高いので、制約があるとはいえ、端末型ダイヤルアップでLANからインターネットへのアクセスができれば実にローコストですむだろう。

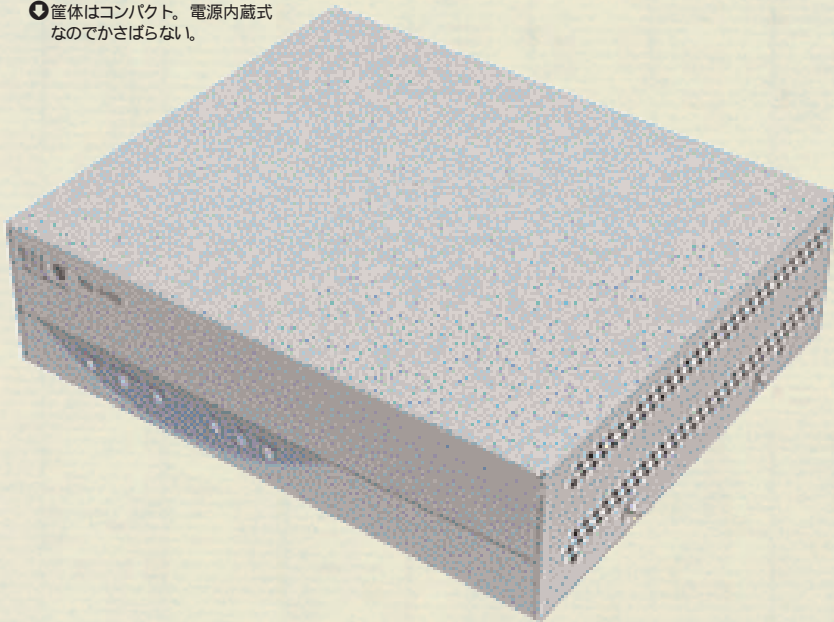
▶ LAN型接続もできる

このようにユニークな機能があるNS-2480だが、それとは別に通常のLAN型ダイヤルアップ接続や、専用線接続もできるようになっている。端末型接続からLAN型接続、そして専用線接続と、環境のステップアップに対応できるのは安心できる。また、カタログには「OCN等の新しいサービスにも対応」と書いてある点にも注目したい。ファームウェアがフラッシュROMになっており、書き換えができるようになっているので、新しいサービスにも対応できるということだろう。

▶ WWWブラウザで簡単に設定できる

NS-2480は内部にhttpサーバーを持っており、ネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラを利用して設定できる。従来のダイヤルアップルーターはほとんどがシリアルクロスのケーブルでパソコン

① 筐体はコンパクト。電源内蔵式なのでかさばらない。



①各種インジケータが見やすい。



①背面から見たところ。左からディップスイッチ、ISDNコネクタ、LANコネクタ、クロスケーブル用コネクタ、「CROSS・LAN」切り替えスイッチ、電源ケーブル、電源スイッチ

とつなが、通信ソフトを起動してコマンドを打ち込んだり、慣れないメニュー画面を操作したりしなければならなかった。WWWブラウザで設定できるのなら手軽だし、初心者にもなじみやすいインターフェイスといえる。なによりも、どのパソコンからも通信できるのはうれしい。また、メニュー画面の中には「ページョンアップ」というリンクがあり、セイコー電子工業株式会社のホームページをクリックするとセイコー電子工業株式会社のページを表示するようになっている。

▶ アナログポートはない

背面のインターフェイス部分にはISDN用のコネクタ、LANコネクタ、電源スイッチ、「CROSS」と「LAN」の切り替えスイッチなどがある。ハブから接続する場合は「LAN」を選び、ハブを使わずにパソコンのネットワークボードから直接つなぐ場合は「CROSS」を選ぶ。わざわざクロスケーブルを用意しなくて済むのはうれしい配慮だ。また、アナログポートがないのは惜しい。モデムやTAを使ってきたユーザーがもう少し気軽に利用できるように、アナログポートが2つ付いたモデルの登場を期待したい。

▶ DSU内蔵モデルもある

以上のような機能を持ちながら、NS-2480は98,000円という低価格を実現している。ダイヤルアップルーターのほとんどが100,000円以上の価格を付けている中で、なかなか魅力的な価格だ。また、DSU内蔵モデルもあり、DSUがないモデルとの価格差は20,000円で、NTTのDSUが24,800円であるのに比べて安いこともうれしい。ただし、DSU内蔵モデルにはNECのTA「Aterm IT55 DSU」にオプションで付いているような、他のTAを増設するポートはないので注意が必要だ。ほかにTAやダイヤルアップルーターなどを付けようとした場合、新たにDSUを買う必要がある。

試用レポート

▶ 端末型の設定は簡単

今回はDSUがないモデルをお借りした。ウィンドウズ95がインストールされたPC/AT互換機2台をハブに接続し、ハブとNS-2480を接続する。設定を始めるにはまずディップスイッチを設定のモードにして、ウィンドウズ95で「MS-DOS プロンプト」を起動する。ARP

コマンドでNS-2480のハードウェアに登録してあるネットワークアドレスと、LAN内で使用するプライベートアドレスを対応させる。この作業を行えば、あとはひたすら使っているWWWブラウザを使い、ページを見ながら設定することができる。ここまでの作業は一見煩雑そうに思えるかもしれないが、マニュアルは分かりやすく書かれており、「ARP」コマンドを使ったことのない人でもマニュアルに書いてあるとおり入力すればなんとか設定できるようにはなっている。ただし、LANを構築したことのない人はそれなりの知識を身につける必要はあるだろう。

WWWブラウザで設定できる段階までくればあとは簡単だ。加入しているプロバイダーのIDとパスワード、電話番号やIPアドレスなどを入力し、設定を保存してディップスイッチを通常の位置に戻せば終わりだ。

接続するときもページから操作する。「接続」というリンクをクリックし、登録したメニューを選ぶだけで接続が始まる。「接続しました」という表示が出れば、ホームページを見たり、電子メールを送ったりできるようになる。

もう1台からアクセスするときにはつながっているパソコンからのアクセスを一度切断しなければならない。片方がつながっている場合にもう1台のマシンからつなぐとすると「使用中です」という表示が出るので注意が必要だ。

▶ LAN型接続の設定がわかりにくい

今回はLAN型ダイヤルアップ接続を試してみた。この場合は設定のメニューで「LAN間接続」を選ぶ。この設定メニューは端末型接続と違ってメニュー形式になっておらず、各項目でスクリプトのようなものを書かなければならない。せっかくWWWページという初心者がとりかかりやすいインターフェイスを使っているのだから、もう少し設定しやすいようなメニューにしてほしかった。このような点はファームウェアのバージョンアップで解決してほしいところだ。

多少の制約はあるが、WWWブラウザで設定できる気軽さと価格の安さは魅力的だ。今後、多くのプロバイダーの推奨機種として普及することを期待したい。

(編集部 kataoka@impress.co.jp)



②WWWブラウザを利用して設定することができる。

NS-2480

- セイコー電子工業株式会社
- 98,000円 (DSU無しモデル)
- 118,000円 (DSU内蔵モデル)
- 0120-234-288
- 電源ケーブル、ISDNケーブル
- <http://www.sii.co.jp/>



9,800円 (店頭パッケージ価格)
3,500円 (ダウンロード価格)



株式会社アスキー・サムシンググッド



WWWブラウザから取り込んだ静止画や音声をわかりやすく一覧表示する

インターネットニンジャ

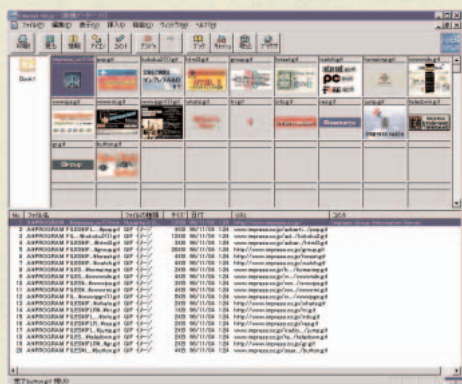
Internet Ninja

ここがスゴイ!

- ① すべてのデータをわかりやすく表示する
- ② 静止画、動画、サウンド、URL、HTMLなどが区別なく扱える
- ③ ドラッグ&ドロップの簡単操作

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]



- ① インターネットニンジャの画面。
取り込んだ画像はわかりやすく表示されるので便利だ。



- ② 取り込んだ画像は拡大して見ることもできる。

アスキー・サムシンググッドが開発した「インターネットニンジャ」は動画、静止画、サウンド、HTMLなど、インターネット上で扱われるさまざまな種類のデータをわかりやすく簡単に表示できる新しいソフトウェアだ。インターネット上にある膨大な情報やマルチメディアデータを1つのソフトで簡単に整理して活用しようというのが、このソフトの最大のウリだ。

▶ WWWのマルチメディア特性に合わせたデータ管理ソフト

インターネットニンジャはWWWブラウザのキャッシュからさまざまなマルチメディアデータを取り込み、簡単に一覧できる。画像や動画ファイルに関してはすべて縮小して内容を表示してくれるので、一目で中身が判断できる。また、サウンドファイルやHTMLなどに関してはウィンドウズ95で利用しているアイコンを自動的に割り当てる仕組みになっている。表示されたデータを選んでダブルクリックすれば、音声や動画などさまざまな形式のデータを再生する。従来は、静止画ならばソフトA、動画ならばソフトB、サウンドならば...とそれぞれデータ形式に合ったソフトを個別に起動しなければならず、データの管理方法の違いや操作方法の違いにわずらわしさを感じることがあったが、インターネットニンジャなら、それらのさまざまなデータを単一のビューアで再生することができる。一般的には、ちょっとしたスクラップブックのような使い方もできるだろうし、グラフィカルなURLブックマークという利用の仕方も考えられるし、好きな画像や動画だけを集めて鑑賞するためのギャラリー構築もできる。

▶ WWWブラウザと連携できる

操作方法は簡単だ。データはすべて一元管理され、混在した複数の形式のデータもすべて一覧表示される。操作に関してもほとんどがドラッグ・アンド・ドロップですんでしまう。

まずインターネットニンジャのデータの入力方法だが、いくつかの方法がある。「挿入」メニューからファイル単位で追加していく方法と、WWWブラウザと連携したモード、そして各種アプリケーションなどが

らのドラッグ・アンド・ドロップによる方法がある。WWWブラウザに関しては、インターネットエクスプローラーとネットスケープナビゲーターに対応しており、それぞれ自分のパソコンのハードディスクに蓄積されたキャッシュデータを自動的に取り込んだり、現在表示しているWWWのデータをすべて一括して取り込むこともできる。また、WWWブラウザで表示しているドキュメントの中から一部の画像ファイルだけをドラッグ・アンド・ドロップしたり、さらには表示中の一部のテキストをコピー・アンド・ペーストすることもできる。

一覧表示されたデータは、表示の仕方を自由に変更できる。表示のボックスにはファイル名やURLのほか、任意のコメントを入力して表示するなど、細かい設定も用意されているので、利用しやすいようにカスタマイズもできる。

また、表示されたデータをダブルクリックすれば、静止画データは実寸表示され、WAVファイルやAVIファイルなど、ウィンドウズでスタンダードに使われているファイルはインターネットニンジャが持つプレーヤーで再生される。インターネットニンジャのプレーヤーがサポートしていないサウンドやHTML、動画データなどはウィンドウズ95で関連付けられたアプリケーションが自動的にデータを読み込んで立ち上がるようになっている。一覧表示されたデータも1つのデータベースの中で「ブック」という単位でまとめられるので、さまざまなジャンル分けによる管理などが簡単にできる。

▶ ホームページ作成者にも便利

アスキー・サムシンググッドではセールスポイントとして受信者側の便利さを強調しているが、ホームページの作成者にとっても便利なソフトといえる。ファイルネームだけでは管理しにくい、いわゆる「素材」データを一覧して表示して、中身を確認しながらインターネットニンジャ側からHTMLエディターにドラッグ・アンド・ドロップしてやればデータのコピーも簡単にできてしまうからだ。

ちょっとしたアイデアの生きたソフトであるだけに、ユーザー側の使いかた次第でいろいろな利用方法が考えられる面白いソフトといえるだろう。

(石橋 文健)

インターネットニンジャ



株式会社アスキー・サムシンググッド
ベータ4



(11月15日に正式版リリース予定)



03-5436-7859



9,800円 (店頭パッケージ価格)
3,500円 (ダウンロード価格)



<http://www.asg.co.jp/ininja/index.html>

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp